

所属高等学校	加治木高等学校
教 科・氏 名	数学・小川 泰史

1 視察した高校名とその概要

●愛媛県立松山東高校

前身は1828年設立の藩校・明教館であり、松山中学校時代には正岡子規が学び夏目漱石が教えた。卒業生には大江健三郎などがある。創立140年を超え、東大・京大など200名以上が国公立に合格する県内一の進学校である。平成26年度から5年間SGHの指定を受け、今年度からは「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」に採択されている。

●愛媛県立松山南高校

平成14年度のSSHの事業開始から継続的に指定を受けている数少ない高校である。普通科と理数科を持ち、さらに定時制と、デザイン科の分校を持ち、「オール松山南」（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）を大切にしている。国公立への合格数は県内最大であり、部活動でも顕著な成績を残していて、「高いレベルでの文武両道」を実践する学校である。

2 視察時期

9月26日（木） 愛媛県立松山東高校

9月27日（金） 愛媛県立松山南高校

3 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて参考になった点（箇条書きで可）

●愛媛県立松山東高校

- ・黒板の代わりに全教室ホワイトボードが設置され、教員がパソコンを持ち込めば簡単に備え付けのプロジェクターを利用することができ、前時の復習や投影した内容への書き込みなどができる。
- ・2年生からは習熟度別授業を行っていて、それぞれのクラスの到達目標に向けて、論的な思考を深めるような教材や発問を選択することができる。
- ・今年度から県のアクティブラーニング指定校になり、数学科として授業改善のループリックを作って共有したり、相互授業参観を行ったりと、改善に努めている。

●愛媛県立松山南高校

- ・SSHとしての取り組みから、自然と「主体的・対話的で深い学び」が実践されていて、ペアワークやグループワークも授業で盛んに取り入れられ、意欲的に活動している。
- ・iPadを170台導入し、「ロイロノート」というアプリを利用して、課題を配信、ノートに解いた答案を写真に撮って提出、その答案を全員のタブレットに映しながら採点し解説する、といった使い方をしている。そのアプリは家庭でスマホで開くことができ、予習・復習や課題提出にも活用できる。
- ・一方で、「ロイロノート」はあくまでもサポートであり、「アナログ」を大事にしている。例えば「南高手帳」というビジネス手帳の形式の手帳を全生徒が持っていて、スケジュール管理やその日感じた大事なことを記録している。これはそのままポートフォリオとしても使える。また、課題研究のための図書館の本も充実していて、多くの生徒が借りている。
- ・普通科、理数科を問わず、各種コンクールや研究発表会に積極的に参加したり、各種サイエンスキャンプや研修会に自主的に参加したりと、充実している。また、各地の大学の出前授業や、地元愛媛大学の研究室訪問、授業（入学時に単位として活用できる）へも意欲的に参加している。

4 ALの視点からの授業改善に向けて授業に取り入れたいことなど（箇条書きで可）

- ・基本は「アナログ」、デジタルはサポート。ただ、「デジタル」の方がスタートからゴールまでの授業デザインを丁寧に作りやすいので、その部分を「アナログ」ではより意識して行う。前時の復習や今日何を学ぶのかについて話をする、授業の終わりに今日の振り返りをし、内容が身についているかの小テストを行う。提出課題は、提出をさせてこそ意味がある。
- ・教師自信が、授業で扱っている内容を楽しんでいるかどうか。そのために、大学レベルまで内容を深く理解しているかどうか。